



子どもたちに響く
自分探しの旅

『ぐるんぱの
ようちえん』

西内ミナミ



million
books
222
万部

『ぐるんぱのようちえん』 西内ミナミ／作 堀内誠一／絵 福音館書店 本体800円+税 1965年初版
とっても大きなぞうのぐるんぱが働きに出ますが、どこへ行っても特大サイズのものをつくって失敗ばかり。
「もうけっこう」と言われ続けますが、最後に素敵な出会いが待っていました。



ロングセラーの絵本は
大人がつくるものでなく、
子どもの読者がつくっていくものですね

—西内ミナミ

Minami Nishiuchi

1938年京都府生まれ。児童文学作家。東京女子大学卒業後、博報堂、アド・センターでコピーライターを務める。在学中より童話や絵本を創作。最新刊は『こぶたのぶーぶ』（真島節子／絵 福音館書店）。

『ぐるんぱ』の物語は「50年前の私の自画像」と言う西内さん。子育てと仕事とが両立できるのか悩んでいた頃、つらいことがあっても、やがてはいい出会いがあつて、本当に自分がやりたことが見つかるかもしれないと希望を抱いて書いたお話が、3、4歳の読者にちょうど芽生える自立心とびたと合うのでは、と分析します。特別に大きいぞうのぐるんぱを、表紙に入りきらない絵とデザインで表現したのは堀内誠一さん。苦勞の末に広がるハッピーエンドは、何度読んでもうれしくなります。